

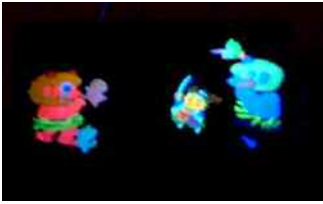
カラー版でも提供中です

学校だより  
No.16

# 月にみがきて

H20. 12. 19

更級小学校



## 本に親しんだ 10日間



図書委員のみなさんが、熱演してくれ、とてもキレイだったブラックパネルシアターから「読書旬間」が始まりました。玄関ホールには、たくさんの企画の案内や、本の紹介が張り出されて、「さあ、たくさん読もう！」という雰囲気盛り上げていました。

低学年は「より多くの本を読む」、高学年は「いろいろなジャンルの本に親しむ」が今回のテーマです。朝の図書館は、いつもの3倍はにぎわっていました。活動のいくつかを紹介します。

おすすめの本を書いて友だちに紹介するのが「読書郵便」です。一年生も熱心にたくさん書いて図書館カウンターのポストに投函していて感心しました。



図書委員の皆さんは、休み時間も大活躍して、当番で「紙芝居」をやったり、「読書クイズ」を出したり大活躍です。廊下には委員の皆さん推薦の本の紹介も貼りだしてありました。「これ廊下に（書いて）あった『火の玉レストラン』」と、本を借りていく低学年の子もいて、委員のみなさんの努力が確かに実を結んでいるように思えました。



絵本コーディネーターの**小林いせ子先生**と「おはなしネットワークちくま」の皆さん方が、期間中の3日と8日に訪問してくださり、各学年別に「読み聞かせ」や「紙芝居」、「朗読劇」などたくさんのプログラムで本の世界のすばらしさを子どもたちに伝えてくださいました。

それぞれの学年にあった絵本や、お話しを紹介してくださり、子どもたちは本の世界に見事に引き込まれていき、私を含め先生方も大変、勉強になった思いです。



朗読劇「ブレーメンの音楽隊」



小林先生の読み聞かせ

各ご家庭では、親子読書の取り組みありがとうございました。「お母さん忙しいから、後で読んでと机に置いておいた。ちゃんと読んでくれて、本の

ことが話せたよ。」子どもが、『家庭でも本を手』を願ってのとりにくみです。私たち教職員もこの旬間中にあらためていろいろな本に触れ、その世界に出会い感動しました。本のよさが見直されている昨今です。引き続き、子どもたちが読書する姿に、励ましの声をご家庭でもかけていただければと思います。

## 12/3 (水) 5年生収穫祭

テーマ「感謝の気持ちをこめながら」、大豊作のもち米をお餅にして稲作りでお世話になった方々や、全校



に振る舞いました。5年生の保護者の方々の協力もあって、たくさんのお餅を準備することができました。収穫祭では感謝状をお渡ししました。

また、2年生は学級園でとれた大豆をきな粉にして提供しました。粉挽き機をお借りして、その威力にびっくりしたそうです。



### ちよつとご注目【市補導センターたよりから】

他県より異動してきた市内の書店店長さんが、ここに来てびっくりしたことは、「夜10時過ぎに親子(小中学生)で来店する客がある」ことだそうです。「近年、子どもたちの睡眠時間が少なくなるなど、大人の都合により子どもの生活習慣がだいぶ乱れてきている。保育園、小学校などで生活ができない原因の一つと断定したい。：目白大学 谷田貝公昭教授の講演」 「夜遅くに幼子連れ出すことは、児童虐待の一つのようにも考えられます。早寝、早起き、朝ごはんの励行をお願いします。」